

八ッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書(素案)についての意見

埼玉県さいたま市

要旨

この検証結果で利水・治水において八ッ場ダム案が、他の対策案と比べて事業費が圧倒的に安く、最適とされました。この検証の主体が八ッ場ダム事業者である関東地方整備局であるため、公正で客観的・科学的である検証とはとても云えません。

我が国は、人口減少、少子高齢化、莫大な財政赤字に直面しており、ムダな公共事業の見直しから、八ッ場ダム建設の「予断なき検証」が追求されると歓迎しました。しかし、3月11日の東日本大震災や原発事故による復興が最優先課題とされるなか、この検証の目的が失われてはいないか？大いに疑問を持っています。

現在の日本経済や社会状況を考えると、国民の血税は有効に使われなければなりませんし、浪費は出来ません。今回の八ッ場ダム検証は不十分ですので、白紙に戻し、もっともっと国民の生活に則した検証が必要と考えられます。住民参加の第三者機関による再検証を求めます。

4 八ッ場ダム検証に係る検討の内容

ここでの検討の内容は、八ッ場ダム建設事業の洪水調節、新規利水、流水の正常な機能の維持についての総合評価ですが、八ッ場ダム建設予定地周辺の地質などの安全性の検証が十分とは云えません。直ちに再検証すべきです。

4. 1 検証対象ダム事業等の点検

ここでは、八ッ場ダム残事業費 1,300 億円、工期 87 ヶ月と点検結果を得ている。としているが、試験湛水終了や堆砂計画が妥当であるとは考えられません。

① 埼玉県の荒川上流中津川の滝沢ダムでは試験湛水において、国道 140 号、市道、管理道路に亀裂が入り、5 年におよぶ地すべり対策工事が施されました。ダム完成後の地すべり対策費は 145 億円程と管理事務所で聞いており、昨日(10月31日)その地すべり対策工事を視察いたしました。(5年間、毎年視察して来ましたが、写真を参照してください)ダムサイト上流はアンカー工が壁面一帯に施されていました。この滝沢ダム周辺住民は、移転してダム湖の周辺には住んでいませんが、八ッ場ダムではすでに代替地で生活をしている住民がいます。もっと慎重に地すべり対策がなされることは当然ですので、工期 87 ヶ月とはとても信じがたいことです。

② 同じく荒川上流の二瀬ダムは運用から 50 年で、既に計画量の 9 割が堆砂しています。

近く、掘削等の対策工事が行われるとのことですが、ダムの寿命は考えているより短いと思われます。(写真参照)

この二つのダムは火山灰が堆積した地すべりを起こしやすい地質です。同様の地質を持つ八ッ場ダム建設を考えた時、残事業費、工期とも妥当ではありません。現実的には工期延長と予算の増額が考えられますし、堆砂計画も妥当であると考えられません。

4. 2 洪水調節の観点からの検討

昭和22年のカスリーン台風からすでに60年間以上が経過、利根川の河川改修は進められ、大きな洪水が来ても氾濫の危険性は無くなっています。過去60年間一度もなかったと聞いています。2008年6月10日、国会答弁で、同規模の台風が襲来したと仮定したとき、八斗島のピーク流量は、八ッ場ダムがある場合と無い場合と同じ流量毎秒 20,421 m³であると述べられ、「八ッ場ダムの効果なし」と報道されています。

日本学術会議において、検証された結果でも、八ッ場ダムだけでは利根川上流にもっとたくさんのダムが無ければ洪水調節は出来ないと最後に述べられています。

また、埼玉県知事は加須市、大利根町の利根川の状況について「5～6年に一回くらいは、堤防すれすれに水が来ております」と述べていますが事実誤認です。河川改修は延々と進められ、その結果大きな洪水でも十分な余裕を持って流れるようになっていきます。堤防の漏水事故が発生したことを問題視し、八ッ場ダムが必要だと主張していますが、漏水は堤防が決壊する危険性を示すものであり、その防止は堤防の強化でしか防ぐことは出来ません。利根川の洪水は八ッ場ダムに頼るのではなく、堤防強化工事を早急に国に求めることが、利根川流域住民の生命と財産を洪水から守ることが出来ます。八ッ場ダムの治水効果があてにならないことを踏まえ、河川整備計画を立て、その上での再検証を求めます。

4. 3 新規利水の観点からの検討

利水参画者の水需給の点検と確認をし、得られた回答の将来需要を確認のもと「事業は継続」と判断したとありますが、その根拠に理解が得られません。東京都はじめ利水予定者は現実と乖離した水需要計画によって、本来は不要な水量を八ッ場ダムに求めています。利水の検証は各利水予定者の水需給計画を審査しなくてはなりません。利水予定者の水需給計画をそのまま容認して、要求水量を確保する代替案との比較のみで、富士川からの導水等といった時間とコストのかかる実現不可能な代替案により八ッ場ダム案が最も有利と誘導したように思えます。また地盤沈下を理由に、埼玉県でも地下水の利用が減ってきていますが、最近の10年間では、地盤沈下も沈静化しており、地下水も保有水源に加えるべきと考えます。地下水ほど安全な水はありません。利水予定者の水需要計画を見直した上での、検証を求めます。

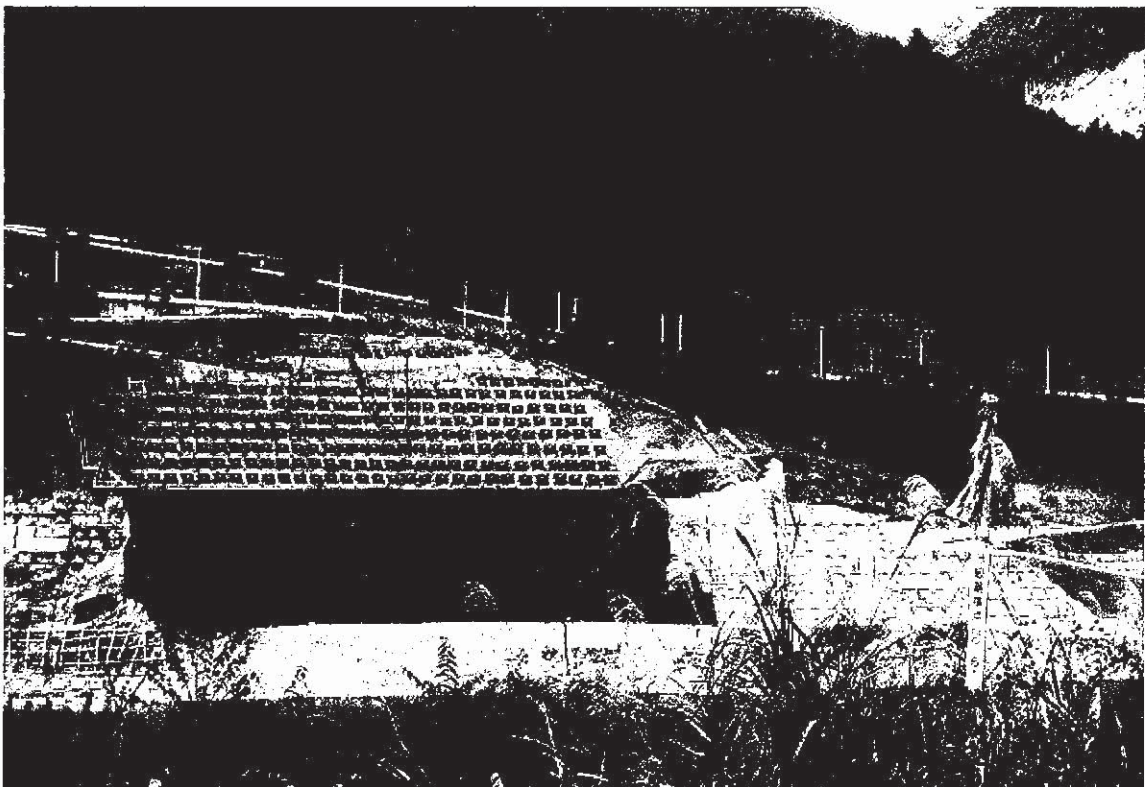
その他 意見

東日本大震災や台風による自然の猛威で、多くの犠牲者や被害を受けた我が国は、これまでの考え方を大きく変えざるをえません。ダム案を最も有利と導きましたが、台風12号では近畿地方のダムは、洪水調節機能を失い役に立たなかったと聞いています。

私は、八ッ場ダム貯水池の地すべりや代替地の安全性について、特に危惧しています。八ッ場ダムは取り返しのつかない災害を誘発する危険性があります。検証以前に即刻の中止を求めます。

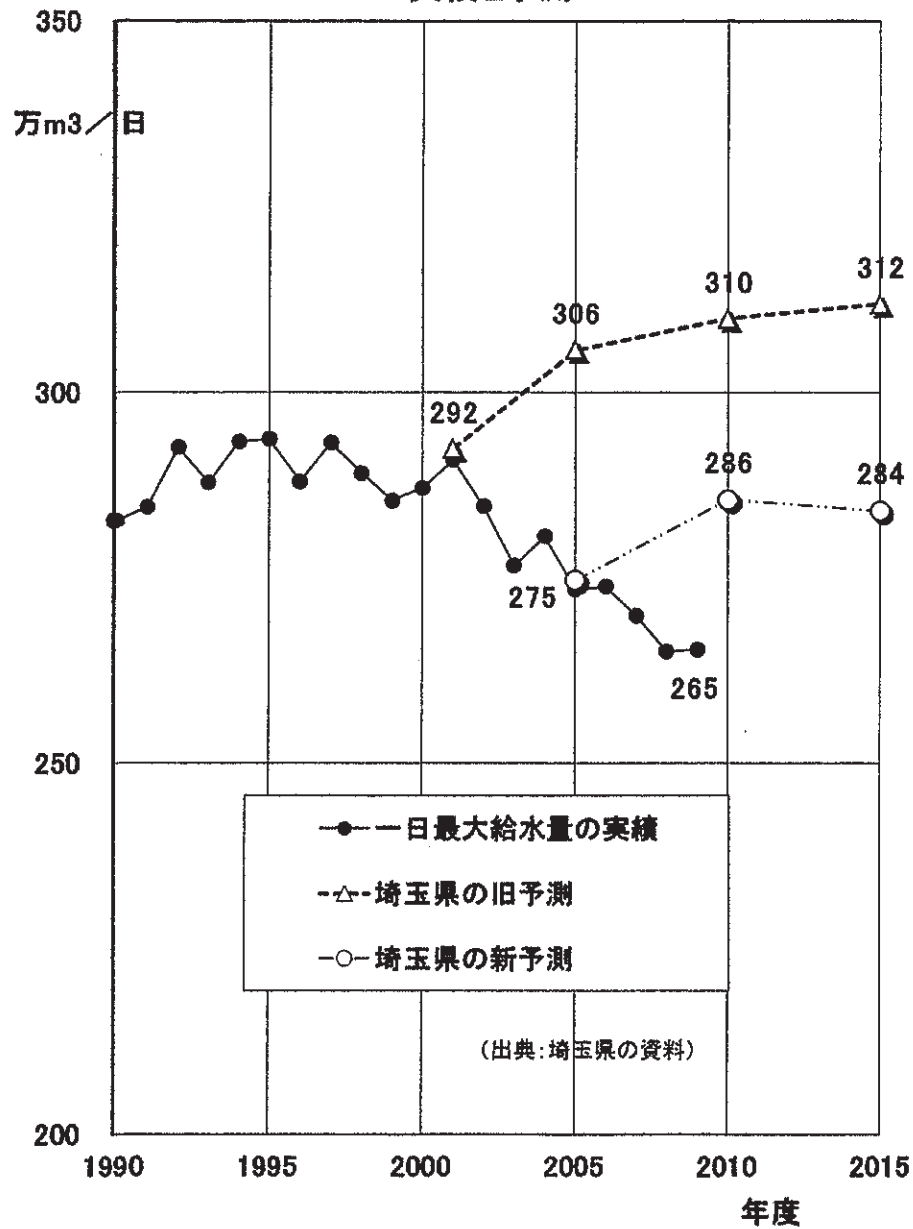


二瀬ダムの堆砂（写真奥） 2011.10.31



アンカーボルトだらけの滝沢ダム 2011.10.31

埼玉県・水道の一日最大給水量
の実績と予測



東京都水道の一日最大配水量の実績と予測

